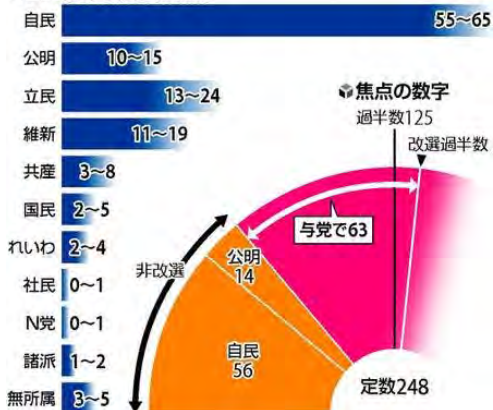


与党が改選過半数の勢い・立民は伸び悩み・維新は大幅増の公算...読売情勢調査

読売新聞 2022/07/03 23:00

読売新聞社は1～3日の3日間、全国世論調査を実施し、第26回参院選（10日投開票）の中盤情勢を探った。自民、公明の与党は改選定数（124）の過半数（63）を上回る勢いだ。立憲民主党は伸び悩み、改選23議席の確保は微妙な情勢となっている。日本維新の会は改選6議席から大幅に増やしそうだ。

各党派の予想獲得議席



選挙戦を左右する全国32の「1人区」（改選定数1）で、自民党は優位に戦いを進めている。保守地盤の強い栃木、群馬、富山、石川、山口など19選挙区で野党系候補をリード。複数区では、改選定数2の茨城、静岡、広島での議席獲得が有力となり、東京選挙区（改選定数6）では2議席獲得を視野に入れた。

公明党は、候補者を立てた7選挙区のうち、東京選挙区で議席を獲得する可能性が高い。残り6選挙区を含めて「全勝」を狙う。比例選は前回2019年参院選と同じ7議席獲得をうかがう。

立民は、複数区の千葉、東京で優位に立っているものの、埼玉や大阪、兵庫などは予断を許さない展開だ。比例選では、19年に獲得した8議席を下回る可能性がある。

昨年10月の衆院選で躍進した維新は、支持基盤の厚い大阪で2議席を獲得する勢い。比例選で立民の議席数を上回る可能性があり、選挙区選と合わせ、改選議席を倍増させる公算が大きくなっている。共産党は東京、神奈川など都市部で接戦を繰り広げている。比例選は19年と同じ4議席に手が届きそうだ。

国民民主党は山形、大分で議席獲得を狙う。比例選は伸び悩んでおり、改選7議席の維持は難しい情勢だ。れいわ新選組は比例選での議席獲得を射程にとらえた。諸派では、参政党が比例選で議席を取る可能性がある。

与党と憲法改正に前向きな維新、国民などの勢力が、国会発議に必要な総定数の3分の2（166）を維持できるかどうか注目される。維持するには82議席が必要だ。

今回の参院選は、改選定数124（選挙区選74、比例選50）と、神奈川選挙区の非改選の欠員1を補う「合併選挙」を合わせた125議席が争われる。選挙区選に367人、比例選に178人の計545人が立候補した。

調査は電話で実施し、6万809人から回答を得た。情勢には

総支局の取材結果などを加味した。一定数の回答者が投票する候補者や政党を挙げておらず、情勢はなお流動的な要素がある。

比例選、自民が全世代から支持・維新は伸長狙う...読売情勢調査

読売新聞 2022/07/03 23:00

読売新聞社の参院選中盤情勢調査では、自民党は比例選（改選定数50）で2019年参院選に続いて第1党を確保する勢いだ。日本維新の会は大幅な議席増をうかがい、立憲民主党を抜いて比例選の野党第1党が視野に入る。

比例選 主な党派の予想獲得議席



自民は16年と19年の比例選で獲得した19議席には届かない可能性があるが、全世代で他党より支持を得ている。職業別でも全職業で他党を上回り、特に農林水産業では半数を固めた。

ただ、内閣を支持すると答えた人の5割強しか固められていない。自民支持層でも8割弱の支持にとどまり、他の主要政党がそれぞれの支持者を8割から9割強固めているのと比べると低い。無党派層からの支持も1割超と広がり欠ける。

公明党は16、19年に獲得した7議席と同程度になりそうだ。支持層の9割強を固め、自民支持層の一部も取り込んでいる。

立民は19年の8議席に達するか微妙な情勢だ。内閣を支持しない層からの支持が2割程度で、政権批判票を集め切れていない。無党派層からの支持は1割強で維新と分け合っている。重視する政策で「年金など社会保障」を挙げた層の2割弱から支持を得た。

維新は19年に獲得した5議席から躍進し、2倍近くうかがう。地盤の近畿では3割程度と自民を超える支持を集めている。内閣支持層と不支持層のそれぞれ1割超から支持を得ている。重視する政策で「外交や安全保障」「原発などエネルギー政策」を挙げた層の2割弱を取り込んだ。

共産党は19年の4議席と同程度になりそうだ。国民民主党は19年の3議席を維持できるかどうか微妙だ。れいわ新選組と諸派の参政党は複数議席を獲得する可能性がある。社民党は改選1

議席を死守できるかどうかの戦い。NHK党は議席獲得を視野に入れる。

争点「景気や物価高対策」37%、「コロナ対策」最下位2%... 読売世論調査

読売新聞 2022/07/03 23:00

読売新聞社が参院選の情勢を探るために実施した全国世論調査で、最も重視する政策は、「景気や物価高対策」37%がトップで、「年金など社会保障」20%、「外交や安全保障」14%などの順だった。「新型コロナウイルス対策」は2%で最下位だった。



投票する候補者や政党を決めるとき、最も重視する政策について7項目から一つだけ選んでもらった。

年代別にみると、60歳代以下のすべての年代で「景気や物価高」が1位だったのに対し、70歳以上は「社会保障」が「景気や物価高」をわずかに上回り、トップだった。2位は、40歳代以下で「教育や子育て支援」、50歳代で「外交や安保」と「社会保障」、60歳代で「社会保障」となり、違いがみられた。

投票に「必ず行く」と答えた人は74%だった。調査方法が異なり、単純に比較はできないが、前回2019年参院選の投票票日1週間前に行った調査では64%。19年の選挙での投票率は48.8%（選挙区選）で過去2番目に低かった。今回調査の「必ず行く」を年代別にみると、最も高いのは70歳以上の78%で、年代が下がるほど割合も下がり、18～29歳は58%だった。支持政党別では、自民支持層で75%、立憲民主支持層で81%、無党派層で61%だった。

参院選に「関心がある」は、「大いに」41%と「多少は」42%を合わせて83%だった。「大いに関心がある」との回答を年代別にみると、70歳以上の46%が最も高かったのに対し、18～29歳では35%で最も低かった。

[スキャナー] 複数区 各地で激戦...参院選中盤情勢

読売新聞 2022/07/04 05:00

読売新聞社の参院選中盤情勢調査では、与党が手堅く選挙戦を

進めている状況が明らかになった。改選定数2～6の「複数区」では多くの候補が当落線上で競う。各党党首は3日、複数区での遊説で支持の積み上げを図った。全国32の「1人区」（改選定数1）では自民党が半数以上の選挙区で先行している。（政治部 栗山紘尚、植村信介）

当落線上に多数...党首らテコ入れ



立候補者らの街頭演説に集まった人たち

ち（3日、都内で）＝若杉和希撮影

複数区的情勢		先行		当落線上	
6人区	東京	自	立	公	自
4人区(※)	神奈川	自	自	維	
4人区	埼玉	自		公	立
	愛知	自		立	公
	大阪	維	自	維	
3人区	北海道	自		立	立
	千葉	自	立		
	兵庫	維	自		
	福岡	自	立		
2人区	茨城	自			
	静岡	自	無		
	京都			自	立
	広島	自		無	維

※神奈川は、改選定数4に非改選の欠員補充を加えた5人が当選
党派は、自||自民、立||立憲民主、公||公明、維||日本維新の会、共||共産、国||国民民主、れ||れいわ新選組、無||無所属

岸田首相（自民党総裁）が、投票日までの最後の日曜日に選んだ遊説先は、札幌市だった。

市内の大通公園で演説した首相は、「きょうはラストサンデー。全国有数の激戦区である北海道で、皆さんの力で勝利に導いていただきたい」と自民新人への支援を訴えた。

首相とほぼ同じ時間帯には、立憲民主党の泉代表も新人の応援で札幌市に入り、「きょう私が来たのは、激戦だからだ。もう一押し、あと二押しが必要だから来た」と力を込めた。

改選定数3の北海道では、自民現職が一步リードする構図で、残りの「2枠」を巡って立民の現職と新人、自民新人ら計4人がデッドヒートを繰り広げる。

全国13の複数区で、自民は大半の選挙区で当選圏内を確保している。北海道をはじめ、2人を擁立した東京や神奈川、千葉で「2人当選」を狙い、確実に議席を積み上げる戦略を描く。情勢が伸び悩む立民にとっても、「2人当選のチャンスがある北海道は最重点区」（幹部）となる。

他の党首も、自党候補が当落線上で接戦を演じる選挙区を回った。

公明党の山口代表は、神奈川県相模原市の街頭で現職候補の応援に立ち、「選挙戦も後半に入り、いよいよ胸突き八丁の戦いだ」と支持者に呼びかけた。

改選定数4の神奈川では、非改選の欠員補充を加えた5人が当選する。自民の現職と元議員、日本維新の会の元議員が先行し、公明現職を含む4人が横一線で追う展開となっている。

公明は複数区に擁立した7人全員の当選を目指す。東京で優位に立つ以外はいずれも接戦で、今後も党幹部を積極的に投入してテコ入れを図る。

東京(改選定数6)も大混戦となっている。自民の現職と新人、立民現職、公明現職が頭一つ抜け出し、共産党現職や維新新人ら4人が競り合う。維新の松井代表は東京都内で「最後の1議席を争っている。なんとか取らせていただきたい」と声を張り上げた。

共産党の志位委員長は大阪市でマイクを握った。大阪(改選定数4)では、維新現職2人と自民現職が優勢で、公明現職や共産元議員らがせめぎ合う。志位氏は「どうか逆転勝利をお願いする。きょうで3回目の応援だが、最終盤にもう1回来る」と約束した。

国民民主党の玉木代表は、現職が出馬した愛知(改選定数4)に入った。愛知は自民現職が引き離し、立民現職や国民現職ら5人が団子状態で争う。玉木氏は「大変厳しい状況だ。皆さんの1票を託してほしい」と語った。

れいわ新選組の山本代表、社民党の福島党首、NHK党の立花党首も、東京都内を回った。

1人区 自民優位... 12選挙区は伯仲

1人区の情報	選挙区		合計
	自民リード	接戦	
	宮城、栃木、群馬、富山、石川、福井、岐阜、滋賀、和歌山、鳥取・島根、岡山、山口、徳島・高知、香川、愛媛、佐賀、長崎、熊本、鹿児島		19
		岩手、秋田、山形、福島、新潟、山梨、長野、三重、奈良、大分、宮崎、沖縄	12
	野党系リード	青森	1

参院選の勝敗を左右する全国32の1人区では、自民党の優位な戦いぶりが目立つ。保守地盤の厚い北関東や北陸、西日本など計19選挙区で野党系候補に先行する。このうち18選挙区が再選を目指す現職で、長崎では新人が抜け出した。

物価高騰などを受け、報道各社の世論調査で内閣支持率には陰りが見え始めているものの、党内は「大きなうねりにはなっておらず、影響は限定的だ」(幹部)との見方が大勢だ。

党執行部は、緩みを警戒している。1日には、茂木幹事長名で「一瞬の油断が命取りとなる。風向きも一瞬で変わる危険性がある」として、引き締めを求める文書を各陣営に送った。岸田首相(党総裁)は4日夜、党本部に幹部を集め、終盤戦に向けた戦略を練る。

野党は巻き返しに全力を挙げる。無所属を含む野党系候補が自民候補に先行するのは、立憲民主党の現職が2期目を狙う青森のみだ。16、19年の参院選では、野党は全ての1人区で候補者を一本化した。今回は自民と野党系の事実上の一騎打ちとなった選挙区が11と大きく減ったことが影響している。

立民の泉代表は3日、札幌市で記者団に「立憲民主党に投票しようという機運になるよう最大限努力したい」と語った。

今後のカギを握るのが、自民党と野党系がしのぎを削る12選挙区だ。野党の地盤が比較的厚い地域が多く、7選挙区には野党系の現職がいる。福島と三重は、新人同士がつばぜり合いを演じている。

自民の遠藤利明選挙対策委員長は3日、長野県上田市で演説し、「何としても議席を与えていただきたい」と訴えた。立民の西村幹事長は地元の新潟市で街頭に立ち、「大接戦だ。助けてください」と声を張り上げた。

終盤戦では、与野党とも無党派層への働きかけを強めるとみら

れる。自民や立民などは、比例票の上積みを目指して大都市部での遊説を増やしつつ、競り合う1人区にも積極的に応援弁士を投入する見通しだ。

【注目区に行く・京都】 自立維 複雑な三角関係

読売新聞 2022/07/04 05:00



■京都(改選定数2)
 福山哲郎 51
 平井基一郎 43
 橋本久美 53
 星野達也 33
 安達悠司 40
 近江政彦 52
 楠井祐子 54
 吉井章 55
 (敬称略、届け出順、年齢は投票日現在、四角囲みは推薦・支持政党)

街なかには観光客の姿が戻りつつある京都で、ひととき大きなポスターが有権者の目を引いている。

<京都のことは 京都で決めよう。>

青地に白字の「立憲民主党カラー」で大書されたポスターは参院選公示の直前、立民京都府連がA1判とA2判の計4000枚を作成した。意識した相手が、京都選挙区に9年ぶりに候補を擁立した大阪発祥の日本維新の会であることは明白だった。

「今、大阪の政党の人が京都に来て『大阪の改革を京都へ』って言いますよ。京都のこと、ほっといてくれ。もう、いらん！」

立民現職の福山哲郎(60)は6月24日夜、京都市内の公民館で拳を握って言い放った。福山が「京都のことは京都で決めようじゃないですか」とポスターの文言を反復すると、約100人の聴衆から「そうだ!」と声が飛び、5秒にわたって拍手が湧いた。陣営幹部は「大阪への対抗意識を喚起したい」と語る。

5選をかける福山は1998年の初当選以来、自民党や共産党と改選定数2を分け合ってきた。立民幹事長だった福山は、メディア出演などで知名度も高い。

「指定席」に待ったをかけたのは、4月に維新が擁立した新人の楠井祐子(54)だった。翌5月には国民民主党が楠井への推薦を正式決定し、構図は一変した。連合京都では、四つの民間産業別労働組合(産別)のうち、国民に近い3産別は福山への推薦も支持も見送り、自主投票となった。福山が維新に向ける敵対心は、危機感の裏返しでもある。

維新は、大阪に隣接する京都を「最重点区」に位置付け、代表の松井一郎(58)(大阪市長)や副代表の吉村洋文(47)(大阪府知事)を集中的に投入する。吉村は6月24日、「自民と立民の固定席だった京都は今の国会の構図そのもので、(勝利は)古い体質を変える象徴になる」と記者団に強調した。

衆院京都2区選出で、維新との連携を主導した国民代表代行の前原誠司(60)は6月26日夜の演説会で、推薦理由を「もう一度政権交代を実現したいという一点に尽きる。残念ながら、旧民主党の力だけで政権が取れる状況ではない」と説明した。

旧民主党時代、前原と福山は、一緒に政権交代を目指した同志だった。前原が演説で福山本人を批判することはない。「非自民・非共産」を信念とする前原はこの日の演説会で、「野党同士が食い合うのではなく、自民(の議席)をぜひ変えていく」とも語った。地元では、前原の行動が、福山との事実上の決別を意味すると受け取る向きもある。

前原は、自らの後援会幹部を楠井に紹介するほか、演説の指導役も買って出る。前原の後に壇上に立った楠井は、前原の名前を何度も出しながら「国を変えていきたい」と国政への意欲を見せた。

維新の挑戦は、参院京都選挙区での公明党の戦略にも影響を与える。公明は公認候補を擁立せず、自民新人の吉井章（55）を推薦した。公明が衆院で議席を持つ大阪や兵庫での小選挙区では従来、維新は擁立を見送ってきた。公明内には、「今後も競合を避けるため、参院選の京都で一部の票を維新に流して恩を売るべきではないか」との意見もある。

一方、立民とは本来、敵対関係にある自民陣営は、福山にエールを送る。

6月25日夜、京都市内の小学校で開かれた演説会では、自民の重鎮で元衆院議長の伊吹文明（84）が立民のポスターを褒めそやした。

「いいことを言っているなと思った。大阪の人は京都にちょっかいを出さんでもらいたいですな」

念頭には、昨年の衆院選での大阪の惨状がある。自民は候補を擁立した大阪府内15小選挙区で維新に全敗した。京都でも維新の進出が徐々に進む。昨年の衆院選では、京都1区で出馬した新人が比例選で復活当選し、4月の府議補選では維新が勝利した。自民の府連幹部は「これ以上維新に侵食されると第二の大阪になってしまう」と警戒を強める。

この日の演説会では、自民府連会長の西田昌司（63）が「絶対に維新を伸長させない。敵は維新」と声を張り上げた。吉井は、京都市議を4期務めた実績を挙げて、「地域の声を聞いてきたのは私が一番」と力を込めた。

3年前の参院選で議席を得た共産党は、新人の武山彩子（51）を立てた。武山は「大激戦区の京都から勝ち抜かせてください」と訴える。

自民、立民、維新の複雑に絡んだ「三角関係」が、夏の京都を一層ヒートアップさせている。（敬称略）（大槻浩之、京都総局 上村真也）

野党がやや盛り返し「接戦区」増加 参院選中盤情勢分析

毎日新聞 2022/7/3 20:17（最終更新 7/3 21:09）



JR 渋谷駅前、参院選

の街頭演説に集まった有権者ら＝東京都渋谷区で2022年7月3日午前10時29分、本社ヘリから（画像の一部を加工しています）

毎日新聞は2、3両日、第26回参院選（10日投開票）の特別世論調査を行い、取材情報を加味して中盤情勢を探った。自民、公明両党は引き続き堅調で、改選過半数（63議席）に届きそうだ。ただし、6月25、26日の序盤情勢取材時と比較すると野党系がやや盛り返し、全国に32ある改選数1の「1人区」で与野

党接戦の選挙区が5から8に増えた。改選数2以上の「複数区」でも接戦が4から6選挙区に増加した。

調査では「投票先を決めていない」と回答した人が選挙区で約4割、比例代表で約3割おり、投開票日までに情勢は変わりうる。

今回の参院選は計125議席が争われる。自民が「勝敗ライン」としてきた非改選を含めた与党過半数（125議席）には55議席、憲法改正に前向きな自民、公明、日本維新の会、国民民主の「改憲4党」が3分の2の議席（166議席）を維持するには82議席が必要となる。

自民の推定獲得議席は、序盤の56以上から53以上とやや減少した。公明も13以上から10以上となった。ただし、「改憲4党」は改憲の発議に必要な3分の2の議席を維持する可能性がある。

32ある1人区では、自民が21選挙区で優勢を保つが、序盤と比べると福島、福井、宮崎が自民優勢から接戦に転じた。

13ある複数区は東京と埼玉が新たに「接戦」となり、6選挙区で与野党が激しく競り合っている。

東京選挙区（改選数6）は自民2人と立憲民主、公明、共産、れいわ新選組の各党候補が先行し、維新の候補が追う。埼玉選挙区（同4）は先行する自民と無所属を立憲、公明、維新、共産が追い上げる。

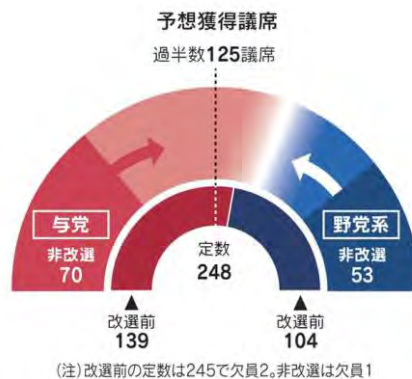
立憲は青森、岩手で優勢を保ち、比例は6～8議席の見通し。全体で11議席以上が見込まれるが、改選23議席を超えるか微妙だ。維新は比例で7～9議席を獲得し、大阪2議席のほか、兵庫、神奈川で議席を得る可能性が高い。

共産は東京で1議席を維持し、比例代表とあわせ4～7議席、国民民主は山形で1議席を見込み、比例代表とあわせ2～6議席の見通し。

れいわは比例代表で1議席以上を獲得する見通し。社民党、NHK党、政治団体の参政党は比例代表で議席を獲得する可能性がある。【高橋恵子】

自公が改選過半数の勢い 立民伸び悩み、維新は伸長 参院選選挙の情勢調査 改憲勢力3分の2視野

日経新聞 2022年7月3日 23:00



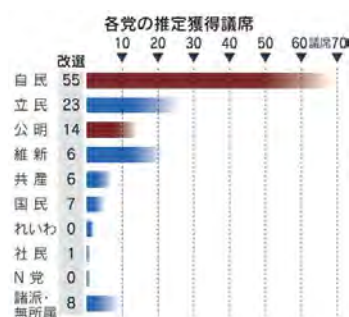
日本経済新聞社は1～3日、7月10日投開票の参院選について世論調査した。取材を加味して情勢を探ると、自民、公明両党は改選124に欠員補充1を加えた125議席の過半数63を超える勢いだ。立憲民主党は伸び悩み、日本維新の会は伸長する見通しとなった。

参院は3年ごとに半数ずつ改選し、今回から総定数が248となる。自公は非改選で70議席を持つため、参院の過半数は55議席で届く。調査は選挙区と比例代表でそれぞれ回答した人の1割前後が投票先を決めておらず、情勢は投票日まで流動的な要素が残る。

自民、維新、国民民主党に公明を加えた4党は非改選で84議席を持つ。この4党の改憲論議に前向きな「改憲勢力」が無所属・諸派を含めて82議席以上とりうる。国会発議に必要な総議員の3分の2(166議席)維持が視野に入りつつある。

自民は全体の勝敗に影響する32の1人区(改選定数1)のうち6割で当選が有力となっている。宮城や新潟、山梨など4割は立民など野党と競り合う状況だ。

改選定数2~6の複数区は大半の選挙区で1議席を確保する公算が大きい。唯一接戦の京都も自民がやや上回る。千葉や東京、神奈川の各選挙区で2人目の当選も狙える情勢になっている。



自民の比例は前回2019年参院選の獲得議席への上積みが見えてきた。選挙区と比例代表の合計で19年の57議席から伸びしろがある。60以上になれば非拘束名簿式の現行制度で01年と13年に続く3回目となる。

立民は先行する1人区が接戦区を含めて青森や長野などとどまる。今回の選挙で野党が候補者を一本化した1人区は11選挙区。16年と19年は全選挙区で統一候補をたて、野党系がそれぞれ11勝、10勝した。共闘体制が限定的になり、政権批判票が分散したことで情勢が厳しくなった。

立民は複数区の東京や千葉、福岡では各1議席の獲得を見込む。北海道は自民と立民が3議席目を競り合う。比例代表と合わせて改選23を維持できるか微妙な情勢にある。

公明は擁立した7選挙区全てでの議席確保が濃厚だ。比例代表とあわせ14議席前後となりそうだ。

維新は改選6議席から2桁台への勢力拡大が見えつつある。選挙区は大阪で議席を確保するほか神奈川、兵庫に加え、京都でも当選圏内入りをめざす。比例代表も改選議席3からの積み増しをうかがう。

国民民主は接戦の山形や愛知で現職がややリードするものの、大分は追う展開となっている。

共産党は比例を中心に議席獲得をめざす。選挙区は改選定数4の埼玉や同6の東京で議席獲得を争う。

れいわ新選組も東京で1議席をかけて維新などと接戦を展開する。社民党やNHK党は比例代表で議席獲得の可能性はある。

調査と予測の方法

有権者への調査は日経リサーチが7月1~3日、乱数番号(RDD)方式で無作為に作成した固定電話と携帯電話の番号を使って実

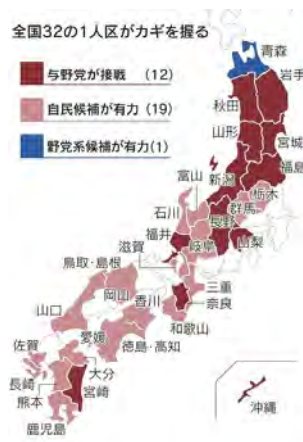
施した。調査員による調査と自動音声による調査を組み合わせた。調査員と自動音声の合計で6万809人から有効回答を得た。1選挙区あたりの回答数は平均1351人。

調査は読売新聞社と協力した。基礎データのみ両社で共有し、それぞれ独自に集計、分析したうえで記事化した。

政党別の獲得議席数に関しては日本経済新聞社が過去に実施した衆院選や参院選の情勢調査と投票結果の関係から予測モデルを作成した。選挙区は各候補の当選確率から政党別の議席数を算出した。比例代表は投票者数と政党得票率を推定しドント方式で議席数を計算した。この結果に取材による情勢判断を加え、最終的な予測議席数を出した。

1人区、自民19選挙区優勢 前回超え視野、東北など接戦 参院選挙の情勢調査

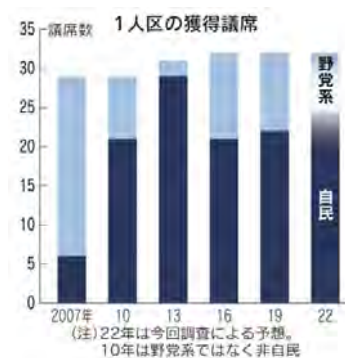
日経新聞 2022年7月3日 23:00



日本経済新聞社の参院選の情勢調査で、自民党は全国に32ある改選定数1の1人区のうち半数を超す19で優勢となった。残り13選挙区のうち東北の5県など12選挙区は与野党の接戦になっている。自民は前回2019年の22勝を上回る議席をうかがう。1人区で自民が対立候補に差をつけている19選挙区は中国、四国など西日本を中心に広がる。

12ある接戦の区でも自民は岩手や秋田、新潟など半数の6つでややリードする。優位に立つ19選挙区と合わせると計25に達する。残りの7選挙区のうち6つで逆転する可能性がある。野党系が抜け出しているのは青森のみにとどまる。

自民は16年参院選が21勝11敗、19年は22勝10敗だった。東北6県は負け越した。第2次安倍政権の発足から半年ほど後の13年は29勝した。当時の1人区は31で敗れたのは岩手と沖縄だけだった。



1 人区は与野党で勝敗がはっきりとわかる。どれだけ議席を得られるかは参院選全体の結果を左右する。

今回は全ての 1 人区で当時の立憲民主や国民民主、共産、社民各党が候補を一本化して自民と「1 対 1」の勝負となった。今回は構図が一変し、事実上の与野党一騎打ちは 3 分の 1 ほどにとどまる。政権批判票や非自民票の動向は割れている。

19 年に野党の統一候補が自民を破った滋賀は今回、自民現職が安定した戦い。立民と国民民主が推薦する無所属新人や共産新人を引き離れた。

今回は野党系候補が接戦を制した秋田は立民や国民民主がそれぞれ推薦する候補が活立し、自民現職が一步先行している。

自民は 1995 年以降勝利できていない岩手でもやや優勢になっている。

野党系は接戦の 12 選挙区のうち宮城や山形、長野、沖縄など 6 選挙区でわずかに先行している。

青森は野党が有力だ。維新や共産が候補を擁立せず、立民現職が広く票を固めている。



強い日差しの中、街頭演説に耳を傾ける人たち（1 日、大阪市）=共同

複数区、立民「民主王国」でも苦戦

日経新聞 2022 年 7 月 3 日 23:00

改選定数 2 以上の複数区でも野党第 1 党の立憲民主党が苦しい戦いを強いられている。関西の選挙区で他候補を追うほか、かつて「民主王国」と呼ばれた北海道でも 1 議席にとどまる可能性がある。自民党は全国 13 のほぼすべての選挙区で優勢で、東京などは 2 議席目をうかがう。

注目複数区の情勢(カッコ内は改選定数)

東京(6)	自 立 公	自 立 公 共	立 社 (N)
神奈川(5)	維 自	自 公 立 共	国 立 社 (N)
愛知(4)	自	立 国 公 維	共 立 (N) 社
大阪(4)	維 維 自 公	共 立 立 国 (N)	
北海道(3)	自	立 自 立	共 国 (N)
兵庫(3)	維	自 公 立	共 (N)
京都(2)	維 自 立	共 (N)	

← 高 当選可能性 低 →

(注) 神奈川は非改選の欠員 1 の補充を含む。NHK 党は複数の候補を擁立している

日本経済新聞社の情勢調査を分析すると、立民は一部の複数区で議席獲得が難しい。関西圏では改選定数 4 の大阪で新人が苦戦し、京都の現職も議席維持を目指して他候補と競る。

2 人を擁立した北海道や東京、神奈川でも複数当選は険しい情勢だ。北海道は旧民主党の支持基盤が厚く、2016 年は旧民主の流れをくむ旧民進党が 2 議席、自民が 1 議席だった。

自民は大半の複数区での議席確保に加え北海道や東京、神奈川、千葉で 2 議席目を視野に入れる。公明党は東京や大阪で安定する。最重点区と位置づける兵庫や埼玉などでも戦いを優位に進める。

日本維新の会は関西圏で勢いを保つ。大阪での 2 議席に加え、兵

庫などでもリードする。東京や神奈川など関東の選挙区にも支持を広げている。

共産党は東京や神奈川などで議席を目指す。国民民主党は愛知で当選圏に入る。れいわ新選組は東京で当選を狙い、社民党と NHK 党は複数区で苦戦している。

比例、自民首位 立民・維新が第 2 党競う 参議院選挙の情勢調査

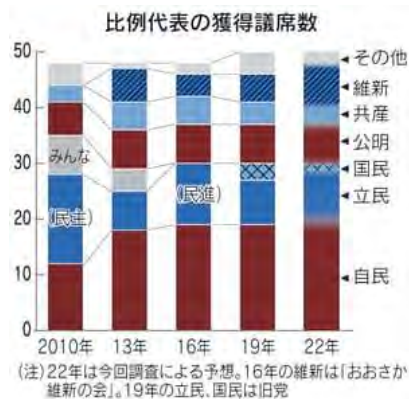
日経新聞 2022 年 7 月 3 日 23:00



西武池袋本店に設置された参院選の期日前投票所（2 日、東京都豊島区）

日本経済新聞社の参院選情勢調査によると、改選定数 50 を争う比例代表も与党が優位に立つ。自民党は改選 19 議席の水準を固めて他党を引き離し、議席増を視野に入れる。第 2 党は立憲民主党と日本維新の会が競る展開だ。

自民党は比例代表に前回 2019 年の参院選と同じ 33 人を擁立した。隣接 2 県による「合区」の選挙区を地盤とする 2 候補については優先して当選する「特定枠」にあてた。前々回の 16 年、前回の 19 年はともに 19 議席を得ている。



立民は改選 7 議席からの上積みを見据える。連合傘下の自治労や日教組といった労働組合の組織内候補らを擁立し、半数は女性が占めた。

公明党は改選議席数をおさえ、増やす余地もある。同党は比例で 7 議席を目標に掲げる。

維新は改選 3 議席から倍以上への伸びを射程圏におさめ、立民に迫る。地方議員や著名人ら 26 人をそろえ、立民を上回る比例票の獲得をめざす。

共産党は改選 5 議席の確保が厳しい情勢だ。前回 19 年並みの 25 人が出馬している。

国民民主党は改選の 4 議席を下回る公算がある。連合傘下の民間労組の候補が組織の引き締めを急ぐ。

れいわ新選組は議席獲得が有力になった。社民党や NHK 党は当選の可能性を残す。

政治団体「参政党」は議席を手にするのが視界に入る。



写真は共同

朝日、蓮舫、竹谷の3人が現職としての実績を前面に出して支持を広げ、盤石の戦いを展開する。朝日は自民支持層の4割、蓮舫は立民支持層の5割弱、竹谷は公明支持層の9割を固めた。朝日は男女ともに広く支持を得る。蓮舫は女性票が厚い。続いて生稲と山本、海老沢が横一線で争う。生稲は18～39歳の若年層への浸透が課題で自身の子育てや闘病の経験などを訴える。山本は党代表の知名度を武器に票の上積みを目指す。海老沢は維新支持層の基盤固めを急ぐ。山添が激しく追う。政権批判票の取り込みに向けて街頭演説を重ねる。立民で2議席目を狙う松尾は伸び悩む。無党派層の3割ほどが投票先を明らかにしておらず、各候補ともに票の掘り起こしに照準を合わせる。

参院選の最大の争点は「経済対策」39% 「憲法改正」は4%に止まる JNN 世論調査

TBS テレビ 2022年7月4日(月)02:31



7月10日に投開票が行われる参議院議員選挙について、最大の争点をおよそ4割の人が「経済対策」と考えていることが最新のJNNの世論調査でわかりました。岸田内閣を支持できるという人は、先月の調査から4.1ポイント低下し、60.4%でした。一方、支持できないという人は3.1ポイント上昇し、34.7%でした。続いて政府の物価高対策について。政府のこれまでの対応を聞いたところ、「評価する」が先月から8ポイント減少し、20%、「評価しない」が9ポイント上昇し、67%でした。物価の上昇が家計に影響しているかについては、「非常に」「少し」を合わせると「苦しくなった」が64%に上りました。政府は物価高などへの対策として、電力会社が提供する節電プログラムに参加した家庭に節電ポイントを与えるとしていますが、このプログラムに参加するか聞いたところ、「参加するつもり」が16%、「参加するつもりはない」が72%と、この取り組みへの期待や理解が得られていない結果となりました。また、値上がりが続く負担感が増す電気料金についてどのような対策が効果的か聞いたところ、「節電ポイントの付与」が5%、「電気料金の引き下げ」が48%、「省エネ家電の購入支援」が30%、「支援の必要はない」が10%でした。この夏、電力の逼迫が懸念される中、エネルギー政策として規制の基準を満たした原子力発電所を再稼働させることについては、「賛成」が53%、「反対」が33%でした。続いて、7月10日に投開票が行われる参議院議員選挙について。最大の争点を何と考えているか聞いたところ、「経済対策」が39%、「少子高齢化対策」「社会保障」が15%と続き、「憲法改正」は4%にとどまりました。

【速報】参院選最大の争点は「経済対策」39% JNN 世論調査
TBS テレビ 2022年7月3日(日) 23:23



7月10日に投開票が行われる参議院議員選挙について最大の争点は「経済対策」と考えている人が39%であることが最新のJNNの世論調査でわかりました。

JNNがこの土日(7月2日、3日)に世論調査を行い、7月10日に投開票が行われる参議院選挙について最大の争点は何と考えるか聞いたところ最も多かったのが「経済対策」39%、次いで「少子高齢化対策」15%「社会保障」15%「外交・安全保障」9%「エネルギー政策」6%「新型コロナ対策」5%「憲法改正」4%でした。

また、参議院選挙の投票に行くか聞いたところ「必ず行く(期日前投票済み含む)」62%「たぶん行く」25%「たぶん行かない」10%「絶対に行かない」3%でした。

【調査方法】固定・携帯電話による聞き取り(RDD方式)
全国18歳以上の男女2458人〔固定1043人、携帯1415人〕
有効回答1198人(48.7%)〔固定603人、携帯595人〕(57.8%)
(42.0%)

【速報】節電プログラム「参加するつもりない」72% JNN 世論調査

TBS テレビ 2022年7月3日(日) 23:48



物価高などへの対策として政府は、電力会社が提供する節電プログラムに参加した家庭に節電ポイントを与えるとしています。節電プログラムに「参加するつもりはない」と考えている人が72%で、「参加するつもり」の16%を大きく上回っていることが最新のJNNの世論調査でわかりました。

また、値上がりが続く電気料金をめぐる対策として何が効果的だと思うか聞いたところ、「節電ポイントの付与」5%、「電気料金の引き下げ」48%、「省エネ家電の購入支援」30%、「支援の必要はない」10%でした。

物価の上昇による家計への影響については、「非常に苦しくなった」13%、「少し苦しくなった」51%、「あまり苦しくなっていない」29%、「全く苦しくなっていない」6%でした。

政府のこれまでの物価高への対応については、「評価する」20%、「評価しない」67%でした。

【調査方法】固定・携帯電話による聞き取り(RDD方式)
全国18歳以上の男女2458人〔固定1043人、携帯1415人〕
有効回答1198人(48.7%)〔固定603人、携帯595人〕(57.8%)
(42.0%)

自公が勢いを維持 改選議席の過半数上回る勢い 参院選中盤情勢

TBS テレビ 2022年7月3日(日) 19:06

今月10日に投開票が行われる参議院選挙について、JNNが中盤情勢を分析した結果、自民、公明の与党で改選議席の過半数を大幅に上回る勢いを維持していることがわかりました。

JNNでは今月2日と3日、毎日新聞と携帯電話を使ったインターネット調査を行い、取材を加味して中盤の情勢を分析しました。それによりますと、自民党は青森など一部を除く多くの1人区で優勢で、選挙区で40議席を超える勢い、比例代表も加えると60議席をうかがう勢いです。

公明党は選挙区で擁立した7人全員がほぼ当選圏内に入ったものの、比例代表は改選7議席を維持できるか微妙な情勢です。自民・公明の与党で改選議席の過半数を大幅に上回る勢いを維持しています。

一方、野党側は立憲民主党、共産党、国民民主党はいずれも伸び悩み、改選議席を減らす情勢です。

日本維新の会は比例も議席を増やし、改選6議席を倍増させる可能性があります。

れいわ新選組は議席を増やす可能性があり、社民党、NHK党は議席獲得へ向けて、支持を広げています。

また、諸派の参政党は比例代表で議席獲得の可能性が高まっています。

ただ選挙区で、およそ4割が投票先をまだ決めていないとしているほか、1週間前の序盤調査と比べて1位と2位の候補者が逆転したり差が縮まった選挙区も複数あるため、情勢は今後、変わる可能性があります。

参政党が議席獲得か 維新が比例で野党第一党に躍進も 比例区情勢 参院選 中盤情勢調査

TBS テレビ TBS 選挙本部 2022年7月3日(日) 19:26



7月10日投開票の参院選について、JNNでは7月2日と3日、毎日新聞と携帯電話を使ったインターネット調査を行い、取材を加味して比例代表の中盤の情勢を分析しました。

自民党は前回2019年の参院選で得た19議席には届かない可能性が出てきました。1週間前の序盤調査と比べてやや失速しています。

日本維新の会は9議席を固めつつあり、立憲民主党を上回る比例での野党第一党が現実味を増しています。前回得た5議席からほぼ倍増の勢いです。

立憲民主党は1週間前の調査から失速していて、前回得た8議席を維持できるか微妙な情勢です。

公明党は前回得た7議席が視野に入っているものの、6議席にとどまる可能性もあります。

国民民主党は前回の3議席に届く見通し。

共産党は、3議席は確保しそうな情勢です。

れいわ新選組は前回と同じ2議席に届きそうです。

諸派の参政党は1週間前の調査から勢いを増していて、1議席獲

得の可能性が高まっています。

社民党とNHK党は議席獲得へ向けて、1週間前の調査からは支持を広げています。

幸福実現党、維新政党・新風、ごぼうの党、新党くにもり、日本第一党は議席獲得の見通しは立っていません。

ただ今回の調査では約3割の人が、比例の投票先をまだ決めていないと答えていて、今後、情勢が大きく変わる可能性があります。

朝日氏・蓮舫氏・竹谷氏・生稲氏先行 山添氏・山本氏続く 東京選挙区情勢 参院選 中盤情勢調査

TBS テレビTBS 選挙本部 2022年7月3日(日) 19:04



7月10日投開票の参院選について、JNNでは7月2日と3日、毎日新聞と携帯電話を使ったインターネット調査を行い、取材を加味して中盤の情勢を分析しました。

東京選挙区は総勢34人が立候補。全国最多の改選数6を争っています。

自民現職の朝日氏、立民現職の蓮舫氏、公明現職の竹谷氏、自民新人の生稲氏が優位に立っています。選挙区で誰に投票するかを明らかにした人を分析すると、朝日氏は自民党支持層の約4割をまとめ、幅広い年代の支持を集めています。蓮舫氏は知名度を活かし、立民支持層の約5割をまとめたほか、無党派層にも支持を伸ばしています。竹谷氏は公明支持層の9割以上をまとめました。生稲氏は積極的に街頭演説などを行い、男性からの支持を多く集めています。

4候補に、共産現職の山添氏、れいわ元職の山本氏が続いています。山添氏は共産支持層の約8割を固めたほか、無党派層にも支持を伸ばしています。山本氏はれいわ支持層の約9割を固め、幅広い年代の支持を集めています。

維新新人の海老澤氏がこれら6候補を追い、吉村洋文大阪府知事が応援に入るなど、支持拡大を急いでいます。

立民新人の松尾氏、無所属新人の乙武氏、国民民主が推薦する諸派新人の荒木氏は支持が広がっておらず、社民新人の服部氏、N党のセッタ氏、長谷川氏、猪野氏、田中氏、松田氏の5新人も厳しい情勢です。

ただ今回の調査では4割以上の人がまだ投票先を決めていないと答えていて、今後、情勢が大きく変わる可能性があります。

■東京選挙区立候補者一覧

- セッタ ケンジ N党 新
- 菅原 深雪 諸派 新
- 山本 太郎 れいわ 元
- 中村 之菊 諸派 新
- 安藤 裕 諸派 新
- 海老澤 由紀 維新 新
- 荒木 千陽 諸派 新

- 服部 良一 社民 新
- 長谷川 洋平 N党 新
- 山添 拓 共産 現
- 猪野 恵司 N党 新
- 竹谷 とし子 公明 現
- 田中 健 N党 新
- 杵澤 亮治 諸派 新
- 桑島 康文 諸派 新
- 小畑 治彦 諸派 新
- 後藤 輝樹 諸派 新
- 朝日 健太郎 自民 現
- 込山 洋 諸派 新
- 及川 幸久 諸派 新
- 青山 雅幸 諸派 新
- 生稲 晃子 自民 新
- 松尾 明弘 立民 新
- 蓮 舫 立民 現
- 斎木 陽平 諸派 新
- 河野 憲二 諸派 新
- 乙武 洋匡 無所属 新
- 中川 智晴 無所属 新
- 田村 真菜 諸派 新
- 内藤 久遠 諸派 新
- 松田 美樹 N党 新
- 河西 泉緒 諸派 新
- 油井 史正 無所属 新
- 中村 高志 無所属 新

7.10 参院選は岸田自民に逆風...情勢一変で気になる「あの有名比例候補」の当落予想

日刊ゲンダイ 7/3(日) 9:06 配信

殺人的猛暑の中、2度目の選挙サタデーを迎えた参院選(10日投開票)。円安物価高へのイラ立ちは内閣支持率を軒並み下落させ、岸田自民党を揺さぶっている。32ある1人区は野党候補の一本化が11選挙区にとどまり、事前予想は「自民大勝」との声が強かったが、情勢は一変。野党猛追の影響は比例区にも及んでいる。反自民が広がりつつある中、あの有名候補の当落はどうなるか——。◇ ◇ ◇

「ガチガチの自民党支持者でさえ、ロクな物価対策を打たない岸田政権に不満を募らせている。選挙区は日頃の付き合いを優先するにしても、比例区は自民にお灸を据えようという動きがなくなって強まっています。消費減税を訴える野党に対し、茂木幹事長が(消費税を下げたら年金3割カット)とドーカツまがいの発言で抑え込もうとしたのも効いている。ポンコツ疑惑の衆院議員が期末手当を満額(約286万円)受け取ったのもマズかった。投開票1週間前の『恒久減税発言』で迷走し、敗北した橋本政権の二の舞いになる可能性は否定できません」(政治評論家・野上忠興氏) 野上氏の分析や情勢調査などを参考に予測した各党の比例区獲得議席数は別表の通り。自民は2候補を特定枠で処遇。3議席目からを争う中、現職の青山繁晴(69)、片山さつき(63)、自見英子(46)、元SPEEDメンバーの今井絵理子(38)、山谷

えり子 (71) が当確ライン。安倍派の岩城光英 (72) と井上義行 (59) は当落線上ギリギリだ。「河村建夫元官房長官の長男の河村建一 (46)、マンガ『ラブひな』の作者の赤松健 (54) は危うい。連立を組む公明党は改選 7 議席を手堅く確保する見通しです」(与党選対関係者)
維新は下馬評の勢いなく…



辻元清美候補 (右) と中条きよし候補 (C) 日刊ゲンダイ

ンダイ

野党第 1 党の立憲民主党は「黄信号」がなかなか消えない。衆院から鞍替えした辻元清美 (62) は楽に勝ち上がりそうだが、現職の青木愛 (56)、有田芳生 (70) は当落線上。与党化が進む国民民主党はファーストの会との連携も効果が見えず、副代表の矢田稚子 (56) がバッジを失いかけている。立憲を上回る比例票獲得を狙う日本維新の会は議席増の見込みだが、当初の下馬評ほどの勢いはない。元都知事でセクハラ騒動の猪瀬直樹 (75) が“まさか”の先頭を走り、スポーツライターの青島健太 (64)、歌手の中条きよし (76) の 3 新人が当選の可能性大だ。「現職の石井苗子 (68)、元マラソン選手で新人の松野明美 (54) も滑り込みそう。もち・レンコン配布疑惑や『顔で選んで』で大炎上した石井章 (65) はギリギリですが、元参院議員でゲイであることをカミングアウトした松浦大悟 (52) は厳しい」(野党選対関係者)

水道橋博士は当選ラインに届かない展開も



水道橋博士候補 (C) 日刊ゲンダイ

共産党は 4 議席を維持し、論客の田村智子 (57) や大門実紀史 (66) は国会に戻ってこれそう。山本太郎代表の鞍替えで躍進を目指すいわ新選組だが、重度障害のある天畠大輔 (40) が特定枠で立つため、「反維新タイガース」をキャッチフレーズに戦う水道橋博士 (59) は当選ラインに届かない展開もあり得る。比例で約 120 万票を集めなければ政党要件を失う社民党は、党首の福島瑞穂 (66) が首の皮一枚。NHK 党は暴露系ユーチューバー「ガーシー」こと東谷義和 (50) を国会に送り込む可能性がある。選挙は「最後の 3 日間が勝負」(野上忠興氏)。まだまだ分からない。山は動かせる。 ※候補者の年齢は投票日時点

久々の「小沢一郎節」東京で炸裂 立憲を取り巻く状況の厳しさにじませ、岸田政権を批判

日刊ゲンダイ公開日：2022/07/01 12:35 更新日：2022/07/01 12:35



立憲民主・青木愛候補の演説会に登場した小沢一郎衆院議員 (C) 日刊ゲンダイ拡大する

参院選公示前から、地元岩手県など“水面下に潜って”自身に近い候補の支援に動いていた小沢一郎衆院議員が、6 月 30 日、東京都内に姿を現した。

立憲から比例区に出馬している小沢グループの現職・青木愛候補が北区の公共施設「北とびあ」のホールで開いた個人演説会に登場。100 人ほどの支援者の前で“小沢節”をぶった。

「野党の状況を見ると、非常に厳しい選挙だ。(立憲の) 党勢が上向かない中での選挙戦を、みんな懸命に頑張っている」

メディアの序盤の情勢調査では与党が「圧勝」だった。小沢氏は 10 分ほどの演説の端々で、立憲を取り巻く状況の厳しさをにじませた。そして、岸田政権を批判。

「今の自公の政治で問題なのは弱肉強食の新自由主義。世界では既に『古い』とされているのに、日本ではそれが政治の根幹をなしている。われわれやかかつての自民党政治とも相反する。国民生活を等しく支え、より良い明日を実現するのが政治だ」

5 月に傘寿を迎えた小沢氏だが、まだまだ意気軒高だ。

【参院選 2022】大混戦の東京・神奈川・埼玉・愛知・京都選挙区の最新情勢調査結果を発表！選挙ドットコムちゃんねるまとめ

選挙ドットコム 2022/6/30



本記事は 6 月 29 日に公開した

動画の内容を基に構成しています。

YouTube「選挙ドットコムちゃんねる」では、毎週選挙や政治に関連する情報を発信中です。

2022 年 6 月 29 日に公開された動画のテーマは……参院選 2022 注目選挙区・最新情勢！

ゲストにジャーナリストの津田大介氏をお招きし、選挙ドットコムと JX 通信社が共同で行った最新情勢調査の結果について語っていただきました。

先行グループに抜け出した候補者はいるのでしょうか？

【このトピックのポイント】

- ・東京選挙区は現職 4 名と生稲氏が手堅く選挙戦を進める。混戦候補の今後の戦略が鍵か

- ・愛知選挙区を落とさたくない国民民主党。当落線上の伊藤氏の情勢に引き続き注目

- ・野党第一党を狙う日本維新の会は関東・京都で苦戦を強いられる

東京選挙区

最新 JX 参院選 東京選挙区 (定数6) 立候補予定者の情勢		
先行	混戦	追い上げ

東京選挙区は現職 4 名が引き続き先行。混戦グループの中でも、

自民党の生稲氏は手堅いとされ、残りの1枠をれいわの山本氏と維新の海老沢氏が争う構図となっています。

前回の調査についてはこちらの記事をご覧ください。

今後の情勢についてMC鈴木は「乙武さんがどこの支持層から票をとってくるかが結果を左右しそう」とコメント。津田氏はファーストの会の荒木氏の手堅い人気に言及するとともに、立憲の松尾氏は蓮舂氏とうまく票の按分ができれば、当選圏内入りもありうるとしました。

7月10日の投票日まで、東京選挙区から目が離せません。

神奈川選挙区

定数4+1で盛り上がりを見せている神奈川選挙区は混戦グループ内で変化があったようです。



神奈川選挙区の定数についてはこちらの記事をご覧ください。情勢は前回先行グループだった浅尾氏が混戦グループ入り。水野氏は順位を一つ上げ、維新の松沢氏は伸び悩んでいるようです。前回調査についてはこちらの記事をご覧ください。

津田氏は、神奈川選挙区について「昨年の衆院選で甘利さんが落選するなど政治的なバランスに変化が見られるエリア」とし、「維新が支持を伸ばせるかどうか注目ではある」とコメントしました。また、立憲が候補者を2名擁立していることについては「共倒れの可能性がある」と言及。

MC鈴木は「そうなったら共産党の浅賀さんにもチャンスが出てくる」と返しました。

津田氏「(野党同士の) 食い合いがどうなるのかは興味ありますね」

埼玉選挙区



上田氏と梅村氏が最後の1枠を争う一方、前回混戦グループにいた維新の加来氏は追い上げグループに落ちています。

埼玉選挙区の前回調査はこちらの記事をご覧ください。

MC鈴木「他の選挙区を含め、全体的に維新の候補が少し伸び悩んでいるようです」

維新の情勢について津田氏は「前回の衆院選でも選挙区で勝ったところは少なく、比例で結構とっていた。今回も同じような構図になるのではないかと分析しました。

津田氏「全国政党になるためにできるだけ候補者を出していくという戦略なんでしょう」

愛知選挙区



愛知選挙区は、維新の広沢氏と国民の伊藤氏が最後の1枠を争う構図になっており、国民民主党の議席が変動する大きな要因の1つとなっている点が注目ポイント。

国民民主党がもともと強いエリアということもあり、MC鈴木は「国民にとって落とすとだいぶ痛手」とコメントしました。

京都選挙区



千葉氏「先行グループに誰もいない！」

津田氏・MC鈴木「これは激戦ですね」

前回の調査で先行グループにいた吉井氏と追い上げグループにいた武山氏がどちらも混戦グループに入り、団子状の情勢となっています。

前回調査についてはこちらの記事をご覧ください。

津田氏は「(混戦ではあるが) 吉井さんと福山さんが混戦寄りの先行」と分析。

一方、維新の思惑については「関西に広めたいという思いは強い」「立憲を叩くことで野党第一党に、という戦略がある」と続けます。

津田氏「衆院選で(立憲の) 象徴的な存在だった辻元さんを落とすことができたから『次は京都だ』という事なんだと思います」先日の選挙ドットコムちゃんねるライブチャット企画では、維新の幹事長・藤田氏が京都選挙区を「最最最重点選挙区」と強調しており、野党第一党争いの行方を占う上でも注目される選挙区です。

ライブチャットの内容についてはこちらの記事で紹介しています。